

ひなんじょでのくらし

しんさいの^{あと}後、^{おお}多くの^{がっこう}学校では^{きょうしつ}教室や^{たいいくかん}体育館が^ち地いきのひなんじょとなり、しばらくじゅぎょうができなくなりました。人^{ひと}びとはどのような^{せいかつ}生活をしていたのでしょうか。

2 ひなんじょでの生活

1 ささえ合う人びと

地^じしんがあつた^{よる}夜、^{ひが}ひがい^{おほ}の^ち大きかった^{がっこう}地いきの^{がっこう}学校には、^{ひと}たくさんの^{ひと}人びとがあつまってきました。^{でんき}電気や^{すい}水道、^{ガス}ガスなどの^{ライフライン}ライフラインが^と止まってしまったからです。^{がっこう}学校に^{そな}そなえてあつた^{しよく}食^りりょうや^{みず}水、^{もう}毛^ふふ、^{トイレ}トイレ^トトペーパーなどを、^{みんな}みんな^なで^わ分け^あ合^{せい}合^{かつ}って^{せい}生活^ししました。



手おしポンプをおす子どもたち



れんらくをとり合うのにやくにたったでん言板
(七郷小学校)

^{しよく}食^じじの^せせ^わ世話^みや^{まわ}身の^{まわ}回りの^{せい}せい^{そう}そも、^{ぶん}分^{たん}た^んを^きき^めめて^きき^{ょう}ょう^かかし^あ合^い合^いました。

また、ひなんじょなどの^{ごん}でん^{ばん}言^を板^をり^{よう}用^{して}、^か家^{ぞく}族^や友^{とも}だ^ちと^たた^がい^にれ^んら^くを^とり^あ合^い合^いました。

ぼくにもできるよ

よしんがつづく中、ひなんじょとなった小学校の体いくかんで朝をむかえた。先生たちが、アルファ米のごはんをくばってくれた。きのうは、クラッカーと水だった。

ひなんじょでは、先生たちや地いきの人たちが中心になって、朝、昼、夜の食事やぐあいが変わるようになった人のお世話をしていた。毛ふやくだものなどをくばったり、水くみをしたり、いそがしそうにはたらいっていた。トイレの水が出なかつたので、プールから水をくんで、ながしていた。

「人手がひつようです。だれか水くみの手つだいをしてくれませんか。」と、声がかかると、何人かの学生さんが、すぐに立ち上がった。

「毛ふをくばります。」
「いわれると、ぼくのすぐ近くにひなんしていた学生さんも、
「よし、手つだつてこよう。」
とうごき出した。ぼくは、そんな学生さんたちのす

がたを、ただ見ていただけだった。

二日ほどして、びょう気のときにお世話になっている、きんじょのおいしやさんが、見回りに来た。

「何かできることはないかと思つて来てみたんだ。けんちゃん、だいじょうぶかい。」

と、おいしやさんに聞かれて、

「はい、元気です。」
と答えた。そう言つてから、ぼくははつとした。そう、ぼくは元気なんだ。ぼくにもできることがあるかもしれない。

つぎの日、

「さあ、水くみをしてこよう。」
と、となりの学生さんがうごき出した。ぼくは、「水くみ手つだいます。」

と、立ち上がった。ぼくだつて、力になれるよ。ぼくは、とつてもさわやかな気もちになった。

(仙台市小学校教育研究会道徳研究部会編
はなむら特集号から 抜粋)